

ホームページをご覧ください
<http://www.yuwakiya.net/>



嘉永四年（一八五一年）版の

長崎市街絵地図

ユワキヤ醤油が創業した江戸時代、当社関係者が長崎に出かけた時の土産とされます。

（嘉永四年当時、二宮尊徳が六十五歳、吉田松陰が二十一歳、坂本龍馬が十六歳）

安政元年（一八五〇）岩城屋創業。
初代六太平が大分市竹中の
現在地でしょうゆ醸造を開始、
大野川の水運や馬車などを
利用して近郊にしょうゆを販
売していました。

一八六四年二月十五日、幕府の命令で勝海舟が坂本龍馬を連れて、大分市佐賀関に上陸し、鶴崎、大南(判田)、野津原(今市)、久住、熊本を經由して長崎に到着。

同年、四月十日に再び大分市佐賀関（徳大寺宿泊）から、四国に戻ったと伝えられています。

※ 1 出島

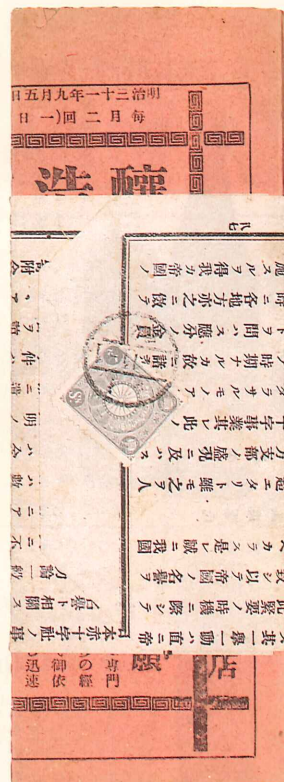
出島の築造は長崎の有力な町人25人の出資により、1634(寛永11)年、長崎奉行所現在の長崎市江戸町の長崎県庁の地)の前の海浜の埋立工事に着手、1年6カ月後の、1636(寛永13)年に完成した。

※2 唐人荷物藏

1702年(元禄15)、土蔵所持の町人39人によって唐人屋敷に近い海岸を埋め立て、そこに荷物蔵を建てた。この造成地が新地(現長崎市新地町)で、以後、唐船の荷物はこの新地荷物蔵に収蔵されることになった。

釀造業談

明治三十五年十一月発行の当時の業界誌（ダイレクトメール）です。
大分県関係の記事（大分県酒造組合連合会設立等々）が記載されています
尚、大分県醤油組合は、明治三十八年に設立されました。



釀造叢談第十七號 (4)

一、大分縣酒組合聯合會設立願未報告の件
一、焼酎バートルの統一を期する爲め之が檢定を内務大藏兩大臣に建議する件（熊本組合提出、原案可決）
一、九州組合出席委員二名提定の件及提出問題（提問可決）
一、燒酎バートルの檢定を内務大藏兩大臣に建議の件（可決）
一、大分縣西南兩實業大會出席委員檢定の件及提出問題
一、第五回内國商業博覽會出品に關する準備の件（原案可決）
一、酒造統括樣式一部變更の件（都合により廢案）
一、三十五年度各組合人名（十月卅日迄確定の上事務所へ報告する件）可決
一、尙二代組合より「酒造製造を全廢するの件に付し建議案を提出する」を希望といふものより午後三時三十分散會なりといふ而して九州組合大會出席委員は選舉の結果西田壽一郎、渡邊敬生の兩氏當選したるといふ

○馬尼拉免輸出酒關稅問題
菲律賓地方の釀造酒は從來馬尼拉到輸出し同地在留日本人の需用に充て來りたが此程の便船に留む同地の嘉納氏は四合語話五打入二十個許りを馬尼拉到輸出せしに彼地稅關に荷擔稅の豫取扱ひの疎漏より一個破損したると其寄客のアルコール性を有するとして同稅關に於ては全く之を酒精と見做し遂に五百圓の稅金を課したる然るに石荷物の原價は漸く二百圓許りのものなるに斯く多大の課稅を受け普通酒として取扱はれるるに於ては前述日本酒の輸出上都合不良ればとて嘉納氏は日本酒釀造の趣來を詳説して酒精とは全く別會の事を説明すると同時に出品と日本酒造協會の説明をも得て之を領事に差出し酒精の課稅を受くべきものにあらずんば主張を徹底せしめんとて昨今手續中なりといふ

(5) 號十七第談叢造釀

鹽田式自働噴霧唧筒 (消毒消火兼用)



罐田式自働噴霧器ハ實金輕便ニシテ價格低廉ナルハ普ニ世ノ認知セラル、所ナリ今回更ニ輕便要
 ノ各部ニ大改良ヲ加ヘタルハ醸造倉庫器具機械等ノ消毒ニシテ之ニ噴
 水管ヲ裝置セバ咄唻ノ間應急ノ消火用啗啗ノヲ猛烈ニ間斷ナル最モ噴水スルノ坊間流布ス
 ヲ消毒火器ノ用ニ供セラルンコトヲ
 (當分ノ内正價ノ一割引)

特約大販賣所
東京市日本橋區本材木町
一丁目十五番地
内田商店